

巨大水槽を探検

洪水集め江戸川に放流する首都圏外郭放水路



地底17m、幅78m、長さ一七七m、サックラウンド二面の広さの巨大水槽の底で、見学と探検をかねて地底文化フォーラムを開くと言う。寒いぞ、いっぱい着込んで来いと言われ、埼玉県の東南、庄和町の地底にあるという江戸側沿いの国土交通省首都圏外郭放水路に出かけた。

豚汁をいただき、ポッカポッカのカイロまでもらい、中にトイレはないから、済ませておくよう念を押され、百十段の階段を慎重に下りた先が左の写真。極寒のはずなのに、下の写真のように薄着カルテットの和やかな出迎えに驚いた。フォーラム主催者が言う「神秘的でパルテノン宮殿のよう」と言うのは納得できたが、地底は本来暖かいのじゃないか、と思いき。

埼玉県の中川・綾瀬川流域の浸水被害を解消するために、五つの立坑を建設、溢れる洪水を、この水槽に集め、江戸川に放水する。水のない水槽の底は、さすがにひんやり。パルテノンよりぐんと堅牢か、太い柱が五九本、地の果ては暗くて見えない。

このテッペンまで洪水が流れ込み、貯水されると聞けば息が詰まりそうになる。コンクリートの無機質な風景は、やはり神秘的。

埼玉県

庄和町の地底に「パルテノン神殿」

排水機場の上には地底体感ホールもある龍Q館



溢れる洪水を集める立坑が五か所、これもデックカイ。内径10m、深さ70m。この立坑の水は国道16号の下50mにある内径10mの水路6・3キロを通過して水槽に流れ込む。写真の建物が排水機場、ここでガスタービンエンジンでオリピックプールほどの水量なら一秒間で江戸川へ排水する。ただし、タービンは現在二台（四台になる）である。見下ろす江戸川はいい景色である。機場は龍Q館という広報施設になっていて、地底体感ホールなどがある。庄和町では周辺を水辺の丘と名づけて町起こしの「名所」にする方針のようである。散策にも絶好である。

末広クラブ・逆井漫歩78 平成17年2月